第 72 回全国植樹祭滋賀県準備委員会第１回会議　議事概要

■日　時：平成 29 年 9 月 26 日(火)10:10～11:30

■場　所：県庁東館７階大会議室（大津市京町四丁目１番１号）

■出席者：別紙出席者名簿のとおり

■議事内容

１　あいさつ

髙砂琵琶湖環境部長よりあいさつ。

２　議事

（１） 第 72 回全国植樹祭滋賀県準備委員会の設置について

事務局より、【資料１】第 72 回全国植樹祭滋賀県準備委員会設置要綱について説明。

委員長については、委員の互選により滋賀県立大学の高橋卓也教授を選出。また、副委員長については、委員長の指名により、びわこ成蹊スポーツ大学の西野麻知子教授と、髙砂琵琶湖環境部長の２名を選出。

（２） 全国植樹祭の概要について

（３） 開催までのスケジュールについて

事務局より、【資料２】全国植樹祭の概要について、【資料３】第 72 回全国植樹祭滋賀県開催までの全体スケジュールについて、を一括して説明。

【質疑応答】

委員長：全国植樹祭のテーマ（理念）について、２巡目となることで何か考えていることはあるのか。また、現在のトレンドをテーマにするのか、もう少し長期的な視点から設定するのか。

事務局：元々全国植樹祭は、戦後の国土緑化や森林造成をメインに考えられていたが、２巡目に入り、近年では造成した森林が利用期を迎えていることから、「木材利用」や「環境重視」などの視点も取り入れられている。また、豊かな海づくり大会の事例にもあるように「山から海へのつながり」といったテーマもある。設定としては、今現在というよりはここ数年のトレンドも考慮しながら中長期的な視点で考えていただきたいと思う。

委員長：大きな予算が必要となるが、予算はどこから出てくるのか。また、どのくらいの予算規模になるのか。

事務局：開催経費については、基本的に県が持つことになる。また、国土緑推からいただく補助金のほか、企業に協賛金をお願いすることも考えていきたい。開催市町では、県外の方を歓迎する経費等を出してくれるケースもある。予算規模については、少ないところでは４千人弱で約４億円。１千人増えるごとに約１億円ずつ増えていく傾向にある。

委　員：参加者の規模はどのくらいを考えているのか。また、各市町で植樹してもらうようなことも考えるのか。一人でも多くの参加を求め、植樹をしてもらえると良い。

事務局：国土緑推との打ち合わせや先催事例から見て、最低で 4,000 人程度と考えてい

る。上は１万人を超えているところもある。規模によって経費も変わってくるが、簡素にするのが流れかと思うので、本県としては４～６千人規模という感じを持っている。開催候補地や予算も勘案しながら決めていきたい。また、今回の基本構想検討の中では、基本的に式典会場となる１か所を決めていくことになるが、今後、具体的な計画を検討していく中では、県内各地で植樹してもらうようなことも考えていきたい。

委員長：関連する催し物は、この議論とは別に検討することになるのか。

事務局：関連する催し物については、基本構想の検討とは別に考えていくことになる。

（４） 基本構想について

事務局より、【資料４－１～４】全国植樹祭基本構想について等を一括して説明。

【質疑応答】

委　員：関西ワールドマスターズゲームズと会場が重複している候補地はあるのか。

事務局：東近江市のひばり公園にある湖東スタジアムで、ワールドマスターズゲームズが予定されている。開催候補地となった場合は、準備や開催時期が重ならないよう市とも調整しながら進めていきたい。

委　員：植樹祭の開催日程はもう決まっているのか。

事務局：決定は１年前だが、それまでに宮内庁にいくつか打診することになる。開催時期については、ワールドマスターズゲームズの期間をはずす予定。

委　員：観光という視点から、ワールドマスターズゲームズと重複すると、県内での宿泊が難しくなる。ぜひ滋賀県に宿泊してもらい、琵琶湖などを観光し、滋賀の魅力を知っていただきたい。そのためにも、滋賀での「おもてなし」を、基本構想の中に盛り込んで欲しい。

（５） 準備委員会の進め方について

事務局より、【資料５】第 72 回全国植樹祭滋賀県準備委員会の進め方について説明。

【質疑応答】

委　員：11 月の開催理念の検討では、森から川、琵琶湖までの循環を捉え、ぜひ「琵琶湖」を前面に出したものにして、理念に特徴を出して欲しい。

委　員：森がないと琵琶湖の生物多様性が守れない。また、シカ等の獣害で山が荒れると表土が流れ出て湖底に溜まっていく。「琵琶湖を守る森」、「琵琶湖につながる森」を掲げて、「じゃぁ、琵琶湖にも行ってみよう」となるようにしてはどうか。湖岸には海にいるような生物もいるし、ヨシもある。

委員長：全国植樹祭はお祭りであり、ポジティブで盛り上がりのあるテーマにしたいという思いではあるが、実際に林業の業界の人と話すと「しんどい」とか「所有者が分らない」など暗い話が聞かれる。テーマとしては扱いにくいが、森林に携わっている人が将来に希望が持てる大会にしていきたいと思う。都市側からの「山や緑はいいね」という声だけでなく、山に携わる人の励みや誇りにつながるようにしたい。

委　員：林業の現場は厳しいし、いつやめようかという話になる。また、後継者も出てこないような状況。「琵琶湖を守る水源の森」も大変重要であるが、山の現場の人が希望を持ち、後継者も増え、滋賀県の山が見直される機会となれば良いと思う。